

ロイトは書いている。「はしご、坂、階段を登ってゆくことは性交の象徴であることは確実です。登っていく歩行のリズムに、また高く登っていくにつれて興奮が増したり呼吸が激しくなってくる点にも、共通性があることが目に付きます。」

① a ユング b バシュラール c アブラハム d クライン

② a パラノイア b ヒポコンドリー c メランコリー d カトニー

③ a 類型夢論 b 不安夢論 c 象徴主義理論 d 幼児性欲論

④ a 成熟 b 性器 c 第二次性徴 d 自己愛

A (①b②c③c④d) B (①c②c③a④b) C (①d②a③d④c) D (①a②d③b④a)

E (①d②c③b④d)

9. 乳児は、母親が持っているものを羨み、破壊しようとし、その結果早期にエディプス・コンプレックスを形成すると論じたのは (①) である。講義で紹介したように、この人の理論に基づいた夢解釈は、嚔下障害の患者が、その心因となった (②) を想起するのに役立った。

① a フロイト b バルト c クライン d ラカン

② a 交通事故 b 幼児期の虐待 c 父のアルコール依存 d 妊娠中絶

A (①b②d) B (①c②a) C (①d②c) D (①d②b) E (①c②d)

10. 講義で紹介した嚔下障害の患者の夢の語りは、振り返ってみると、墜落と登攀との、おびただしい反復を構成していた。このことは日本の「いざなみといざなぎ」の神話ばかりでなく、(①)の「オルベウス」の神話と構造的に一致しているが、「墜落」の部分が「摂食」の主題に接続しているという点では、(②)の「ハイヌウエレ」神話にも通じている。また、この患者の治療過程としての「喪の過程」については、日本の「餓鬼」の概念が想起される。「餓鬼」は、(③)の概念と結びついている。

① a ケルト b 北欧 c ギリシャ d ゲルマン

② a インドネシア b エジプト c アフリカ d アメリカ先住民

③ a 無 b 輪廻 c 陰謀

A (①a②a③c) B (①c②b③c) C (①b②c③a) D (①c②a③b) E (①d②d③b)

11. 言語学で「統辞」の軸と「範列」の軸を設定する構造分析は「文」の大きさでなされていたが、(①)はこれを拡大して神話に用い、(②)は、これをテキスト全般に広げる方法論を考案した。講義において紹介した、夢に関する(③)という考え方は、これらの方法論を踏まえている。

① a ビンスワンガー b バルト c レヴィ=ストロース d ラカン

② a ビンスワンガー b バルト c レヴィ=ストロース d ラカン

③ a 共時構造 b リビド=解釈法 c 拡充法 d 累層構造

A (①b②d③a) B (①c②a③c) C (①d②c③b) D (①c②b③d) E (①a②d③a)